

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1570104057		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホーム うすい		
所在地	新潟市新潟市南区白井1435-3 (電話) 025-373-6655		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	7月8日

【情報提供票より】(19 年 12 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人、非常勤 4人、常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階	建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	14,200 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 350 円	おやつ 円	
	または1日あたり		950 円

(4) 利用者の概要 (19 年 12 月現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広川医院 ・ 椎名歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新潟市南区の白井地区に位置し、周囲には田園や畑、商店街がある環境である。建物は平屋の1階建てで、玄関前の広い敷地には花壇や畑があり、季節の花や野菜が育てられている。玄関には家庭的な雰囲気と開放感があり、居間等の共有部分の天井は高く、外からの明かりが窓から入り込み明るい室内空間をつくり出している。台所の窓は作り直して、利用者の様子を見やすいように改善した。また、廊下には行事や活動の写真や作品が飾られ、利用者の普段の様子を知ることができる。管理者を中心に職員全員で理念をつくり上げ、実践に向けて日々話し合い相談しながらホームを運営している。職員は明るく元気であり、職員間のチームワークも良い。利用者本位の生活を大切に利用者本人、家族、職員、地域等と共に、質の高いサービスを目指して取り組んでおり、利用者が自然体の生活している様子が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価について職員で話し合い改善に向けて取り組んでいる。「マニュアルの作成」には事業所としても前向きに取り組み、独自の個別ケアマニュアルやリスクチェックマニュアル、感染症マニュアル等が整備されている。更に細部にわたって項目や内容の検討を続けている。「地域の人達との交流の促進」については、運営推進会議や自治会、日常的な外出の支援等を通じて、積極的に取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価には職員全体で取り組み、改善方法や計画も定めた。自己評価の意義を理解し、より質の高いサービス提供を目指した取り組みがなされていた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に開催している。ホームの状況報告のほか、地域の状況や行事・集いなどの情報交換をしている。区の担当職員や自治会長、家族等、様々な立場の委員が多数参加しており、活発な意見交換が行なわれ、ホームの存在も浸透してきている。地域の他施設、他ホームの職員から参加してもらうこともある。地域包括支援センターの職員にも参加してもらい、助言を得ながらサービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームには苦情相談窓口の案内が設けられている。面会時や行事の際、電話等のほか、毎月自宅を訪問して、家族に利用者の状況について相談をし、意見や思い・心配ごとなどを聞いて運営に反映させている。また、毎月ホームの広報誌を送付して状況を知らせている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事や活動、お祭り、高齢者を対象とした催し(にこにこ昼食会)などに積極的に参加している。また、地域の商店街やスーパーに出かけて買い物をしたり、馴染みのお店で友人・知人と話をしたりしながら、地域との関係を築いている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	職員全員でホーム独自の理念を話し合い、考えて作り上げた。「人にやさしいグループホーム」という大項目を掲げており、利用者、家族、地域、職員に分かりやすく、明確な理念となっている。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		理念の共有と日々の取り組み	理念は玄関・事務所に掲示して意識できるようにしている。管理者や職員は、自ら作り上げた理念を理解しており、会議や日々の業務の中で話し合い、振り返り、確認し合いながら実践している。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
		家族や地域への理念の浸透	家族へは、入居の説明書や広報誌、毎月管理者が行なう自宅訪問等で、ホームが大切にしていることを伝えている。また、地域に対しても回覧版や広報誌を年4回発行してホーム理念や活動、取り組みなどを報告し、理解してもらえるように取り組んでいる。		
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	自治会に加入し、地域の行事、活動、お祭りや高齢者を対象とした催し(にこにこ昼食会)などに積極的に参加している。また、地域の商店街やスーパーに出かけて買い物をしたり、馴染みのお店で友人・知人と話をしたりしながら、地域との関係を築いている。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	全職員が自己評価及び外部評価の意義を理解しており、前回の評価結果についても全員で改善に向けて話し合い取り組んでいる。自己評価は、管理者を中心に全職員で作成し、ホームの現状を振り返る機会として活用している。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催している。ホームの状況報告のほか、地域の状況や行事・集いなどの情報交換をしている。区の担当職員や自治会長、家族、他施設関係者等、様々な立場の委員が多数参加しており、活発な意見交換が行なわれ、ホームの存在も地域に浸透してきている。地域包括支援センターの職員にも参加してもらい、助言を得ながらサービスの向上に努めている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者から運営推進会議に参加してもらったり、事業所からの報告や相談を市や区の担当者に行なうなど、日常的に連携を図っている。地区の関係者会議や研修会等でも意見交換を行ない、サービスの質の向上を行なう関係が構築されている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加して、高齢者虐待防止関連法に対する理解を深めている。また、管理者が日常的に職員の言葉がけに注意を払い、日常のケアを振り返る意識づけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時、個別に面会時や電話等で日常の様子や状態変化、受診結果等を報告している。また、毎月家族あてに広報誌を発行し、日常の様子や行事、活動の報告、職員の移動や採用等についても報告している。金銭管理についても領収書、出納帳を送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の気持ちを大切にします」と理念にも掲げている。面会時や電話等で、職員から日常の様子や健康状態の話をしなが、家族の意向や希望を伺い、それを職員全員で共有して運営に反映するよう努めている。また、月に1回は管理者が自宅を訪問して家族と話す機会を設け、要望や希望を運営に活かすように取り組んでいる。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの職員会議や研修会等において、活発に意見交換したり、提案について話し合っている。「提案ノート」を設けて意見や提案をいつでも書き込めるよう工夫したり、また、日常的にも管理者、職員相互で話し合える機会や雰囲気づくりをし、職員の意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑えるように努めている。異動がある場合は、事前に利用者・家族に説明し、職員全員でフォローしながら利用者のダメージを防ぐよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人のスタンダードマニュアル、ホーム独自のマニュアルが整備されており、適宜見直し・作成をしている。利用者一人ひとりのケアマニュアル、リスクマニュアルなども作成されている。	○	サービスの質の向上に向けて、マニュアルの項目や内容の検討に継続して取り組んでおり、今後ますます期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、プリセプター研修、新人研修、中堅・リーダー研修、職種別研修等、段階の応じて必要な研修が整備されている。ホーム内部でも毎月研修の機会を設け、職員を育成する取り組みがされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームとの交流や研修会を行なっている。また、地域の関係機関主催の勉強会やネットワーク会議、ボランティア会議への参加、地域の他事業所との相互見学や意見交換などを行ない、サービスの質の向上に取り組んでる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者を中心に何でも話し合える雰囲気できており、職員間で相談し合いながらストレスを溜めないようにしている。法人としても親睦会や旅行、職員の集いの場を設け、職員のストレスの軽減に取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでの生活に関しては、「新生活スタート」というホーム独自の説明書を作成し、サービスを利用する前に本人、家族が安心・納得できるよう配慮している。また、見学やお試し利用、一緒に食事を食べる機会も設けている。入居後も歓迎会を開いたり、職員紹介の場を設け、利用者の安心につなげている。利用者受け入れマニュアルも作成し、利用者が馴染めるよう工夫して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者に寄り添いゆっくと話をしたり、生活の知恵を利用者から教わるなど、ごく自然に利用者職員が共に支えあいながら生活する関係が築かれている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1回の自宅訪問や面会時などに日常の様子や健康状態、生活歴や習慣等、家族と様々な話をして、お互いの思いや気持ちを共有しながら、共に利用者本人を支えていく関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接の段階から、センター方式のアセスメントシートを活用し、本人、家族から思いや希望、意向などの把握に努めている。また、日々の関わりの中で本人の言葉や表情、仕草などを捉え、その都度検討している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホーム独自に「ご家族から教えていただきたいシート」を作成し、本人のこれまでの暮らしや生活状況、家族の気持ちなどを家族から聞き、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係機関等から得た情報をもとに、課題やケアのあり方、本人の状況を踏まえて、職員で意見やアイデアを出し合いながら本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回のモニタリング、3ヶ月に1回担当者会議を開催し、定期的な見直し及び状態の変化に伴う随時見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に合わせてその日の予定や業務を変更したり、外出や外食、一時帰宅支援、買い物等、本人や家族の状況やその時々々の要望に応じて柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を希望される方には希望に沿って対応しているほか、協力病院とも往診や相談など連携が図られている。医療機関への受診支援は、家族の状況や緊急性に応じてホームでも対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自の「ご家族から教えていただきたいシート」に重度化や終末期における家族の意向の項目を設けて、入居時に考えを伺っている。その後は状況の変化等に応じて都度相談しながら方向性や対応方法を決め、共有しながら支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時には「個人情報に関する誓約書」により、守秘義務の遵守を徹底している。法人で個人情報保護に関する研修会も開催され、職員に周知されている。記録も事務所内に保管されていて1箇所にとまめられている。利用者への言葉かけや対応は、プライバシーや誇りを損ねることのないよう職員間で注意あっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを優先して日々の業務や支援を行っており、日課を決めずに自由に過ごして頂いている。外出や地域活動への参加、趣味等、個々の希望や思いを大切にしながら、その人らしい生活が送れるように取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に季節の食材や調理方法を聞きながら、メニューを共に考え、料理して食事している。後片付けも利用者や職員で行い、楽しみながら食事ができるよう支援している。地域の郷土料理を作ったり、ホームの畑で収穫された食材も利用して、食事が楽しみになるよう工夫している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、状態や日時、内容を把握して個々の排泄パターンを把握している。また、パットや紙パンツなど利用者個々にあった排泄用品を活用して、一人ひとりの力や習慣を大切に支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおよその入浴時間帯はあるが、その日の利用者の状態や活動、病院受診の予定等を踏まえて、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。季節の入浴剤も使用し、入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、居室やフロアの掃除を日課として行って頂いたり、畑の手伝い、食事の準備や後片付け、編み物等、役割や楽しみをもてるよう支援している。併設のデイサービスセンターの行事に参加したり自由に行き来して交流し、気晴らしを図っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、散歩や商店街に出かけたり、自宅に行ったりしながら支援している。歩行困難な方や車椅子の方も状態を観察しながら外出できるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成して職員全員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、現在、家族の強い希望でベット片側2点柵を使用している利用者がおられるが、出来るだけ柵をしない方向でケア方法を検討している。	○	家族の強い希望もあり片側2点のベッド柵を使用しており、市の担当者にも相談報告している。現在、出来るだけ使用しない方向でケア方法を検討しているので、期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけておらず、利用者の行動や様子を職員が意識して見守りながら対応している。職員全員が安全に配慮しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書が整備され、再発防止にむけた対応策を話し合い、実践している。日々職員間で利用者の状況や危険性を確認しあい、事故防止に努めている。マニュアルも職員全員に周知され、研修も開催されている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変・事故発生時のマニュアルが作成され、研修や救急法訓練が毎年定期的に行われている。法人全体での緊急連絡体制や職員の協力体制も整備されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	併設のデイサービスセンターと合同で、年2回消防署の立会いのもと消防訓練や避難訓練を実施している。デイサービスセンターとは、避難場所の確保や誘導等の協力・応援体制ができています。また、運営推進会議において、町内での訓練や地域との協力体制を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士から、利用者個々の状態や能力、活動量を踏まえて指導や助言をもらっている。チェック表を作成し、利用者一人ひとりが適切な栄養量・水分量を確保できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は十分なスペースが確保されており、共有廊下にはソファが置かれた談話スペースが用意されている。採光や風通しも良く、利用者の作品や季節の花が飾られ、居心地の良い環境となっている。</p>	○	<p>共有空間は十分なスペースが確保されているが、よりよい空間の確保のために居間の造作変えを計画しているので、実施に期待したい。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者がこれまで使用してきた家具が持ち込まれていたり、手作りの物品が飾られているなど、それぞれ落ち着いて過ごせる場所となっている。また、入居時に持ち込んでもらうだけでなく、その後もその人らしい居室作りを職員が一緒に行なっている。</p>		